

## 5 具体的な取組

### (1) 授業づくり

#### ①子どもたちにとって伝え合いたくなる課題の設定

子どもたちが意欲をもち、「考えてみたい」「他の人はどんな考えなのか聞いてみたい」と思える学習課題を研究する。提示したときにつぶやきができる、学びたくて心おどらせる学習課題やめあてを子どもたちとのやりとりの中でつくる。

#### ②学習内容・学習用語の定着を実感させる

教師は、子どもたちがその教材を通じてどのような力を身に付けるのか、分かりやすく示す。単元の見直しをもつことにつながり、どのように学んでいけばよいか考えることができる。単元で新出する学習用語についても確実におさえる。教材を通して何を学んだかを実感することを系統的に積み重ねることで、新たな文章に出会った際も、以前に学んだことを生かして読むことができる。

#### ③他者と関わるよさを味わえる共同場面の設定

他者と協働することで、新たな学びを子どもたちが体感できるような場面の設定を行う。子どもたち同士の協働場面では、ペア活動、グループ活動、全体での話し合い等が挙げられる。互いに関わり合いながら活動することで自分とは違う考えに触れ、よさを学ぶことができるようにする。それぞれの目的を踏まえたうえで必然性のある共同場面を設ける。

### (2) なかまづくり

#### ①心にとめる子を軸にした学級経営

各学級担任は心にとめる子を軸とした学級経営計画を立てる。職員同士での交流・検討を通して授業づくりや日々の取り組みにおいて、その学級に応じた手立てを講じる。

#### ②学級力アンケート及びなかまづくりアンケートの分析

学級力アンケート実施時点での子どもたちの気持ちを把握し、手立てを講じることで授業づくりや学級経営に生かす。

#### ③授業で生きるアクティビティ

子どもたち同士の関わりを深めることに加えて、授業にも適用できるアクティビティを学級の状態に合わせて実施する(例:「あいづちSST」「きくことのレクリエーション」)。各学級での実践に留めるだけでなく、定期的に職員間で実践の交流を行う。また実践をして、どのように変容したかまでを研究する。

### (3) 教師力の向上

#### ①研究授業及び検討会の充実

事前検討会では、模擬授業を実施し全ての教師がイメージを共有して取り組めるようにする。事後検討会ではより良い教師の出演や子どもの言葉を大切にされた授業づくりを目指すため、授業記録・板書を活用する。各学年複数クラスであることを生かし、授業公開をした学級とは別の学級が、事後検討会での内容を踏まえた実践をする。

#### ②人権感覚の高揚

子どもたちの人権への配慮が態度や行動となって見受けられた際や、人権上問題のある場面に接した際に、教師がそのことに気づき、子どもたちに関わったり指導したりできるよう人権感覚を磨く。人権教育担当・特別支援教育コーディネーター・日本語教室担当等と連携し、人権学習の実践の公開や交流を図る。

#### ③OJLの充実

それぞれの実践や専門分野をもとに、教師同士で伝え合うことで、授業づくりや学級経営に生かす。  
※OJL…On The Job Learning の略。なかまと共に学びを通じて考える教職員集団をめざす。

## 6 成果指標

- ・児童アンケート「授業がわかる」に関する項目 肯定70%以上
- ・児童アンケート「ほめと認め」に関する項目 肯定80%以上